

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分ご理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 43人

② 算数 43人

5 留意事項

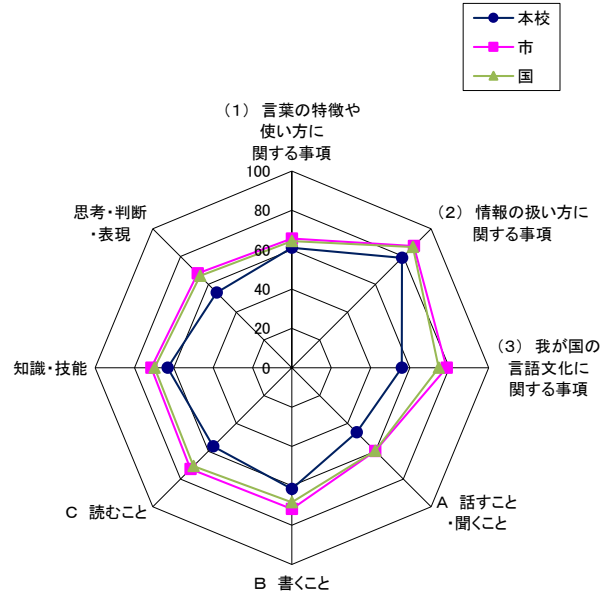
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中央小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	61.0	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	79.1	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	55.8	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	46.5	59.9	59.8
	B 書くこと	61.6	71.8	68.4
	C 読むこと	56.6	72.9	70.7
観点	知識・技能	63.2	71.5	69.8
	思考・判断・表現	54.1	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

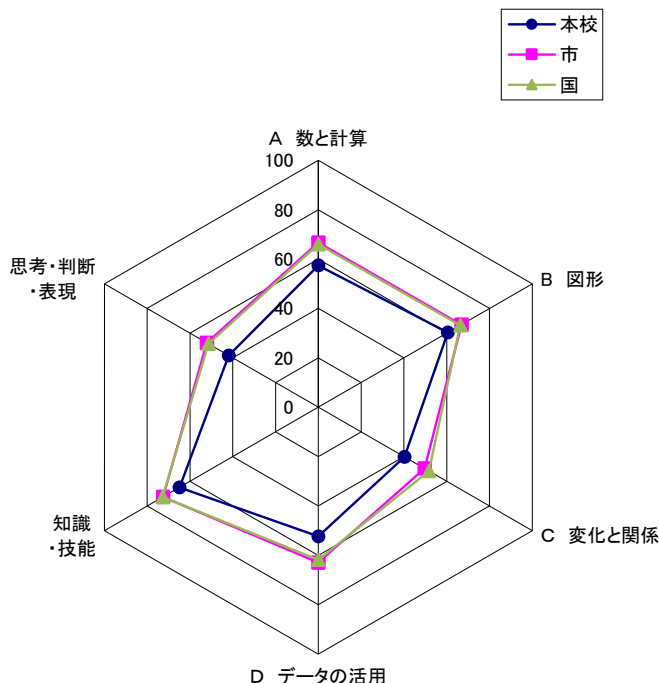
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点	
		○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、全国平均と比較してやや低い。</p> <p>○【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する」問題の正答率は全国平均よりやや上回っている。</p> <p>●【高山さんの文章】の下線部イを漢字を使って書き直す(なげる)」問題では、全国平均より下回っている。</p>	<p>・文の中における主語と述語との関係を捉える問題はさらに品詞の学習を取り入れて充実させていきたい。</p> <p>・学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるよう漢字小テストなど繰り返し学習をしていく。また、間違えやすい部首などを重点的に提示し、児童に正しく書けるよう意識付けをしていきたい。</p>	
(2) 情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、全国平均と比較して低い。</p> <p>●【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する」問題では全校平均を下回っている。</p>	<p>・図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるようにしていくために、文章の大まかな内容を捉えたり、図にタイトルを自分でつけてみるといった学習を取り入れ、大切な情報は何かを見付けられるようにしていく。</p>	
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均と比較して低い。</p> <p>●【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する」問題では全国平均を下回っている。</p>	<p>・日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、読書をしたときの利点について書かれているが、選択する文には、読書することによって身につくであろう様々な利点が書かれている。自分の体験や一般的に良いとされているものではなく、問題文に書かれていることのみを選択するという意識付けを児童にしていく。</p>	
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、全国平均と比較して低い。</p> <p>●「学校の取組を紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する」問題では全国平均を下回っている。</p> <p>●「オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する」問題では全国平均を下回っている。</p>	<p>・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題では、村木さんのメールの内容と和田さんのメモを明確に分けて考えていない傾向が見られた。複数の資料を用意し、どの資料に着目するのかをはっきりさせる学習を取り入れていきたい。主語・述語の関係を意識して、文を読むように意識させる。</p>	
B 書くこと	<p>平均正答率は、全国平均と比較して低い。</p> <p>●「高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する」問題では全国平均を下回っている。</p>	<p>・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題に課題が見られた。依頼文や手紙文といった目的のある文章を書かせることにより、自分(相手)が伝えたいことは何かを意識付けする学習を取り入れていく。</p>	
C 読むこと	<p>平均正答率は、全国平均と比較して低い。</p> <p>●「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する問題では全国平均を下回っている。</p> <p>●【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く」問題では全国平均を下回っている。また、無回答の児童が多い。</p>	<p>・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題に課題が見られた。物語文を読む際に、登場人物の性格を文章中の表現から考えることを今後も継続していく。</p> <p>・書く問題がテストの後半に設けられていたため、無回答率が増えてしまったと考えられる。そこで、時間の配分を意識して作文を書く練習に意図的に取り組んでいく。また、自分の言葉で考え、自分の言葉で表現できるよう読書・辞書引きの習慣付けを行っていく。</p>	

宇都宮市立国本中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	57.4	66.7	66.0
	B 図形	60.5	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	40.3	49.6	51.7
	D データの活用	52.3	62.9	61.8
観点	知識・技能	64.9	72.6	72.8
	思考・判断・表現	41.9	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、全国平均と比較して低い。</p> <p>○「はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ」問題では全国平均をやや上回っている。</p> <p>●「問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ」問題では全国平均を下回っている。</p>	<p>・数量の関係を、問題の文脈に沿って図などに表すことを通して数量の関係を捉え、式に表すことができるようにすることが大切である。本校の児童は、問題場面の数量の関係を捉え、式に表すために図形化することのよさに気が付いていないと思われる。問題を解く際には、まず図形化して数量関係を捉えてみようとする数学的な態度を育てたい。授業で図形化しながら問題を把握していく。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、全国平均と比較して低い。</p> <p>●「作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ」問題では全校平均を下回っている。</p> <p>●「直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く」問題では全校平均を下回っている。また、無回答率が高い。</p>	<p>・直方体の見取図や球の直径の長さで立方体の一辺の長さの関係を捉えるなどに課題が見られる児童には、「図形の性質(定義)を理解していない」「空間・平面のイメージができていない」といった共通点がある。図形問題が得意になるには具体物を使って、形を作成し図形に慣れ親しむ学習や、自分で線を引くなど、実際に手を動かして学ぶことを繰り返し指導する。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、全国平均を下回っている。</p> <p>●「3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く」問題では全国平均を下回っている。</p> <p>●「家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く」問題では全国平均を下回っている。</p>	<p>・「速さ」の問題に課題が見られた。理由として「機械的に計算している」「単位変換の重要性を理解していない」の2つが挙げられる。公式の暗記と単位変換の復習をさせるとともに、間違えた問題は途中式や線分図を活用し、自分の考え方の理由を言葉や数を用いて記述できるようにしていきたい。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、全国平均を下回っている。</p> <p>●「折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く」問題では全国平均を下回っている。</p>	<p>・必要なデータや数値を取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する問題に課題が見られた。問題文が長い、問われていることを正確に読み取ることやたくさん情報や条件の中から必要なものはどれか、そうでないものはどれかなどを考えさせたい課題である。条件過多の問題を解く際には、問題を読み解く「読解力」が必要である。まず何を求めるのかをはっきりと児童に認識させることや、必要ではない情報も混ざっているという意識付けをさせようとして類題を多く解かせていきたい。</p>

宇都宮市立国本中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した児童の割合は95.2%で、全国平均を3.7ポイント上回っている。健康に過ごすために、規則正しく生活する意識が醸成されていると考えられる。

○「自分によいところがある」と回答した児童の割合は86%で、全国平均を1.9ポイント上回っている。また、「先生は、あなたのよいところを認めている」と回答した児童の割合は95.3%で、全国平均を5.4ポイント上回っている。児童のよいところを発見するだけでなく、それを全体で共有したり広めたりしてきたことが結果につながっていると考えられる。

○「人が困っているときに進んで助ける」と回答した児童の割合は95.4%で、全国平均を2.7ポイント上回っている。また、「いじめは、どんな理由があってもいけない」と回答した児童の割合は100%で、全国平均を3.3ポイント上回っている。道徳や学級活動の授業において、親切な行動を進んで行うことの大切さを指導してきたことで、思いやりの気持ちが育ててきたと考えられる。

○タブレットを活用することについて、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」「楽しみながら授業を進めることができる」「画像や動画、音声等を活用することで学習内容がよくわかる」「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」「友達と考えを共有したり比べたりできる」「友達と協力して学習を進めることができる」の6つの質問において、全国平均をそれぞれ7.4%、4.6%、5.5%、9.1%、6.8%、10.6%上回っている。普段の授業において、使用する頻度を高くしてきたことが結果につながったと考えられる。

○「学級活動における学級の話合いを生かして、今、自分が努力するべきことを決めて取り組んでいる」と回答した児童の割合は94.8%で、全国平均を12.2ポイント上回っている。話合い活動を定期的の実施したり、児童の一人一人が役割をもてるような学級経営を意識した指導を行ってきたことが結果につながっていると考えられる。

●「友達関係に満足していますか」の質問についての肯定的回答は86.0%で、全国平均を5.1ポイント下回っている。「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」や「学校に行くのは楽しいですか」についての肯定的回答は全国平均を5ポイント以上上回っているが、常に多くの目で児童を観察し、小さな変化でも情報交換をするなど、連携しながら児童を見守っていききたい。

●「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の質問についての肯定的回答は72.1%で、全国平均を8.6ポイント下回っている。今後、各教科での学習指導や学校生活の中で、児童が自主的に試行錯誤しながら課題解決していく経験ができるよう工夫していききたい。

●「英語の授業の内容はよく分かりますか」の質問についての肯定的回答は62.8%で、全国平均を15.5ポイント下回っている。中学校での学習に向けて、外国語学習に抵抗感をもつことがないよう、児童の実態に合わせてALTと授業改善に努めていききたい。

宇都宮市立国本中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
根拠を基に自分の考えを表現できる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見について必ず根拠を基に話すようにするために話を提示したり、「どうしてそう考えたか」を問い直したりする。 授業の終末での振り返りの時間を確保し、文章で書けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童質問において、自分の考えを発表する機会を工夫して発表していると回答した児童の割合は65.1%で市や県の平均と同程度であった。 国語において、自分の心に残ったところとその理由を書く問題で、無解答が25.6%と高かった。算数において、記述式の問題での無解答率が高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語では漢字の書き取り、算数では問題の文脈に合わせて適切に数量の関係を捉えて立式することに課題が見られた。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本を定着させるための反復練習の時間の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の終末において反復練習の時間の確保。 朝の学習のステップアッププリントの実施。 家庭学習で反復練習を行うように家庭への啓発。